

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2278300311		
法人名	医療法人社団明徳会		
事業所名	グループホームいつくしみの郷 1F		
所在地	静岡県浜松市浜北区平口2406-1		
自己評価作成日	平成27年10月1日	評価結果市町村受理日	平成27年12月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_2015_022_kami=true&JiyosyoCd=2278300311-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成27年10月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

病院がすぐ近くにあり、祝祭日、平日、夜間にかかわらず24時間対応の医療連携が出来る。平口周辺には豊かな田園風景があり、のんびりと生活できる静かな環境にある。毎月季節に合った行事や外出を取り入れ、毎月写真付きおたよりを利用者及び家族に発行している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

玄関に咲き誇るハイビスカス、鶏頭、ペチュニア、千日香のほか裏庭のブルーベリーも職員と利用者の世話の賜物で、話材としても重宝されています。また母体が病院で老人介護保健施設もあることから医療面で安心の環境にあります。例えばお風呂は一般浴槽のため、物理的にも難しくまた苦痛が伴う状態になると併設の老人介護保険施設を紹介しています。また継続的に医療が必要と主治医が判断したなら移設ということになるため、事業所では看取りはおこなっていません。家族も「いつも診てくれる医師のいるところなら安心」という声が大半を占め、医療連携が取れていることで入居を希望される家族がほとんどです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「気持ちの良い生活」を理念とし、玄関に掲示しながら共有している。利用者にとってなにをすれば気持ち良く生活できるのか常に考えながら援助している。	玄関には筆文字の大きな理念が掲げられています。11年前の開設時の利用者が書いてくれたものであり、原点として皆で大事にしています。分かり易い言葉を遣い、例えば「利用者に拒否されたときは一旦引いて意向を確認する」といったことが慣行されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	日常的な交流は出来ていないが、散歩などで近隣の方に出会ったときは挨拶を交わしたり世間話をしたりして交流している。また、2ヶ月に1度「いつくしみ便り」を町内の回覧板に入れてもらい配っている。	職業体験では近隣中学6校を受入れ、また看護学校をはじめ各種専門学校の実習場所としても定着しています。平口の花火大会では職員が設営の手伝いとして出向き、玄関の季節の花の入替えは近所の花屋さんの好意に依るもので、また近くの畑から農作物が届くこともあります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	いつくしみ便りを配ったり、運営推進会議を通して区役所の方々と連携をとっている。学生の福祉体験や看護実習生も受け入れこれからの介護現場での担い手の育成に活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は隔月開催し、入退去の状況、最近の入居者の方々の様子を伝えている。	長寿保健課、地域包括支援センター、民生委員、町内会長と副会長2名、家族1～2名、職員とメンバー構成も豊富に隔月開催が叶っています。感染症の広がりやすい時期の事業所の対応について、家族から意見をもらうことで取り組みへの励みとなり、自信につながったこともあります。	運営推進会議では以前感染症の勉強会を同時開催していたそうですが、併催したり(時間枠を替える)、また別日で地域に向けおこなうといった発展的な取り組みを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に出席して頂き、意見交換をしている。	浜北区役所には月1回程度訪問のほか、事業所連絡会が区役所で開催される折にも出向いています。市役所及び地域包括支援センターからは毎回の出席が得られ助けられています。事業所側が行政事業に貢献することは特段行われてはいません。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを実践している。玄関の自動ドアは出るとすぐ車通りの激しい道路で危険なためにタッチ式になっている。いつでも外に出られるよう行きたい様子があれば一緒に出ている。	職員のアンテナを高くすることで、エスケープしてしまいがちな利用者が玄関付近にいた場合でも慌てず待つケアができています。スピーチ・ロックとして「この言葉はダメです」という取り決めはしていませんが、理念を遵守し利用者が不快に思う言動は全てNGとしています。	玄関及びエレベータは健常者が操作する必要がある状態が恒常的となっています。「振り返りの場としてある」との毎月のミーティングで題材とし、意識が形骸化しないことを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や勉強会に参加し学んでいる。管理者からの指導のもと、常に気を付けている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等で学べる機会がある。活用するのは主に相談対応する管理者が対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の面談にて、質問、意見、要望を伺い、入居後も話が聞ける態勢を整えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面談時、面会に来た時に声を掛けてご意見を伺い最近の様子を伝えさせてもらっている。	家族の希望が決して利用者本人の本意ではないこともあり、事業所が調整弁として機能するように配慮しています。また「リハビリを」という意見が寄せられた件は「手すりをもって立ち上がりを行なう」時間をつくって速やかに対応しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者に相談する機会が常にあり意見や質問をしている。	「危険が及ばないものに関しては行なって良い」という明確な方針があるため言いやすい土壌にあり、「プランターでミニ家庭菜園を」との提案は2階洗濯室のベランダで実現しています。入職1年未満の職員がいないことから、士気が高い様子が覗えます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	休日希望はほとんど通っている。勤務時間内に終われるように職員同士配慮し合っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は順番で行けるように配慮されていてみんな参加できている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修に参加することで同業者と交流する機会がある。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時家人面談をし、いただいた情報と照らし合わせながら、困っている事、不安なこと、要望を聞いている。また、わからない事があつたら職員同士で話し合い、安心できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時センター方式を使い過去から現在までの情報をとり不安な事、要望を聞いている。また、面会時にも困っていることはないか聞いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時に家族や施設で行っていたサービスを聞き、本人が必要としているのか再チェックして、他の方法がないのか考え対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	今まで生活してきた習慣なども考え、家での生活に近づくように注意している。また、雑談などゆっくりする時間も取り、慌たたくしないようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の時に現在の様子など詳しく話している。また、本人からの訴えがなかつた時は家族と相談している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会の制限は家族からの要望がないかぎりしていない。近所のかたも気軽に立ち寄れるように支援している。	容器や新聞紙の大量収集、クロスワードパズルに夢中な人、個々の趣を大切にしています。手持ちのパズルを全て消化して「新しいモノが欲しい」には買い物支援で応え、大人買いが叶い大変喜んでもらえました。面会は時間制限がないため、夕食をともにしてゆく家族もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆が集まる食堂は孤立させないように職員が間に入り会話が続くようにしたり、トラブルがあつた時は、入居者同士が嫌な思いをしないように意見を聞き仲介するようにしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院へ入院されたりする入居者があっても定期的に面会に行ったり、御家族と会ったりしてお話を聞く機会があり、相談に応じたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時、生活歴など詳しく聞き、今までの暮らし方や家人の意見に合うように、また、日常の行動や言葉に注意し、思いを汲み取るように努めている。	居室は意向確認ができる恰好の場として親しく話している職員もいます。アルコールで一旦は体調を崩したものの此処での暮らしから元気になった利用者の飲酒希望と、難色を示す主治医との折衷案として、「ノンアルコールビールなら」ということで解決したケースもあります。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式にて生活歴や暮らし方、サービスの利用など入居時に聞き取りをし、職員全体で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録を細かく時間を分けて記入し、一日の生活の様子を把握できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月フロアミーティングを開き、ケアの方法など意見を出し合い、必要であれば家人や本人と話し、相談しながら作成している。	経験の浅い職員は1名、計画作成担当者は3名ほどのモニタリングを担当し、プランの見直しは3ヶ月に1度おこなっています。各フロアに3名の計画担当責任者がいますが、「おまかせ」を払拭「全員参加」を旨とし、ケアプラン会議は毎月全体で集まっています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録にて、ケアの内容や気づきなどを記録し、申し送りにて、職員間で情報を共有している。また、介護計画にも記録を読み返し見直しにいかしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	三ヶ月に一度、サービス内容を評価し、見直しをしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎月地域の公共施設へ出掛けている。季節に合わせた場所を選んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	十全記念病院がかかりつけ医となっていて、定期的に受診している。	入居時に提携病院にて一度検査をすることで、その後急変となっても24時間オンコールの仕組みがあります。誰にとっても安心があるため、ペースメーカー利用と精神科以外は移行してもらっています。5～6週間おきの受診は職員が付き添い、家族には主に郵送で伝えています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日バイタルチェックをし異変があった場合は看護師に相談し、指示をもらい対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	同法人の十全記念病院なので、情報交換や相談は出来ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人にとって居心地のいい場所はどこか考え、ご家族に相談・方針を決めるために面談の機会を設けるなどしている。	「一般浴槽では苦痛が伴う」状態になると併設の老人介護保健施設を紹介しています。また医療が継続必要という場合も主治医の判断の下移設となるため、看取りはおこなっていません。家族も「いつも診てくれる医師のいるところなら安心」という声が大半を占めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時などマニュアルがあるので、看護師に日頃からアドバイスをもらっているが、訓練は行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行っている。日中のみの訓練で、夜間は訓練をしていない。	防災訓練は春、秋実施し、2回目は併設の3事業所合同で消火器の取扱いと放水訓練をおこないました。連絡網の伝達は「夜勤者が応援を呼ぶ体制が出来ているか」を注視して取り組んでいます。備蓄は倉庫に3日分の食糧・水があり、防災頭巾は1名に1つずつ用意されています。	地域の消防青年団がないという現状は致し方ないこととして、「では何ができるか」を区や市など周囲の助言を得ていくことを期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人の性格に合わせた接し方、言葉を選び対応している。声の大きさやしゃべるスピードにも注意している。	羞恥心の高い人の入浴には「頭と背中だけ流させてくださいね」と言って警戒心を解き、浴室での同席は極力減らしています。またトイレは本人が立ち上がった時を見逃さず、さりげなく声をかけて誘導し、いついかなるときも黒子に徹するよう職員指導をおこなっています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何事も職員が決めてしまうのではなく、入居者がどうしたいのか確認し、無理強いしないように注意している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースに合わせてゆっくりとわかるように声掛けし、時間に合わせて対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやおしゃれができる環境作りを心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	週二回の昼食作りは、料理の本を見たりテレビを見て「あれが食べたい」と言われた物をメニューに取り入れている。それぞれの出来る力に合わせて準備や片付け、調理などを行えるように支援している。	ご飯は事業所で炊いていますが副食は隣接の調理場から運ばれています。ただし、週1~2回はリクエストで炊き込みご飯やカレーを手づくりすることもあり、サンドウィッチでは利用者同士「どうやって塗るの？こっちの美味しそうだね」とテンションもあがり笑顔の華が咲きました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事以外にも10時と15時にお茶の時間を取るようにしている。また、好みの飲み物を個別に用意したりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	就寝前に歯磨き、入れ歯の洗浄、うがいを行ってもらっている。歯磨きができない方はうがい液を使用してもらうなど本人の力に応じたケアをしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	なるべく日中は布パンツにしている。トイレで排泄ができるように時間を決めて誘導している。夜間は安眠のため、その人にあった排泄の方法で対応している。	日中のトイレには立ったことを活かして遠回りなどして“歩く、ことを増やしています。夜間については、覚醒が不十分でトイレ誘導を行なうと転倒のリスクが高まる為、止むを得ずオムツを使う人が多くいます。EGファイバー、ヤクルトは定期購入して便秘対策にも余念がありません。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の有無を毎朝確認している。繊維質のある物をメニューに入れたり、乳製品や十分な水分の確保を心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1人1人の希望に合わせて入浴時間を決め入ってもらっている。また入浴が好きではない人には入浴剤を入れ気持ち良く入ってもらえる工夫をしている。	嫌がる人にはゆず湯など目先をかえて誘い1週間に2回の入浴を清潔保持の目安としていますが、2階では1名毎日の人もいて希望に添っています。夜間帯入浴は職員負担が大きいものの、就寝前に入浴することで安眠につながる人の願いも優先しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中は活動し夜間良眠できるように支援している。お昼寝の時間は個々の生活習慣、病気、体調に合わせて、休息できるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬情報はファイルにとじ、受診内容は職員がわかるように記載して、薬や症状の変化の確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時ご家族から生活歴を聞き、嗜好品、習い事など同じように出来る、または、その代わりになるようなことを提供できるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	家族の希望により外食に行ったり、月一回外食できるように企画したり、お散歩も行きたい時には出かけられるようにしている。	月1~2回は外出行事があり、普段は寝ていることが多い人でも車いすに座ったままリフト車で移動でき、身体に負担なく楽しめています。美園公園、アピタ浜北のフードコート、回転寿司と、お気に入りのエリアも年々増え、職員も全員出勤のシフトを組みユニット毎にでかけています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人がお金を持つことを希望される場合は管理してもらっている。その他の方は職員が管理し毎月領収書を送付している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じていつでも電話や手紙のやり取りができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた掲示物をしたり、写真やおたよりなどを飾っている、玄関や裏庭には季節の花を植え喜んでもらっている。	シンプルな空間ですが、反面ワンポイントの掲示物がより際立っています。また牛乳パックを八角形につなげた足載せ台(車いすを利用の人が椅子に座り直すときに使う)など、職員の手造りが目につきます。廊下側と窓側に1つずつソファが配され、居場所づくりも成されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂にはいつも入居者たちが集い楽しくおしゃべりしている。また、お昼後には、お昼寝をする方もいて自由に過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際家族と相談し、使い慣れた家具、飾り物など家に近い配置にするなど工夫している。	ベッド、エアコン、カーテン、洗面所が予めあり、ほかにも押入れタイプのクローゼットは広い収納スペースがあります。「センサーマットは拘束にあたる」との考えをもって、居室入口には扉が閉まると紐が外れて鈴が鳴るよう職員アイデアが施されていました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室にわかりやすく大きく表示し、居室の入り口には名前といつくしみで撮った自分の写真を貼っている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2278300311		
法人名	医療法人明徳会		
事業所名	グループホーム いつくしみの郷 2F		
所在地	浜松市浜北区平口2406-1		
自己評価作成日	平成27年10月1日	評価結果市町村受理日	平成27年12月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先: x.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=227

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成27年10月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

病院がすぐ近くにあり、祝祭日、平日、夜間にかかわらず24時間対応の医療連携が出来る。平口周辺には豊かな田園風景があり、のんびりと生活できる静かな環境にある。毎月季節に合った行事や外出を取り入れ、毎月写真付きおたよりを利用者及び家族に発行している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

玄関に咲き誇るハイビスカス、鶏頭、ペチュニア、千日香のほか裏庭のブルーベリーも職員と利用者の世話の賜物で、話材としても重宝されています。また母体が病院で老人介護保健施設もあることから医療面で安心の環境にあります。例えばお風呂は一般浴槽のため、物理的にも難しくまた苦痛が伴う状態になると併設の老人介護保険施設を紹介しています。また継続的に医療が必要と主治医が判断したなら移設ということになるため、事業所では看取りはおこなっていません。家族も「いつも診てくれる医師のいるところなら安心」という声が大半を占め、医療連携が取れていることで入居を希望される家族がほとんどです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「気持ちの良い生活」を理念に掲げ、ケアに迷った時は理念に立ち戻り検討するようにしている	玄関には筆文字の大きな理念が掲げられています。11年前の開設時の利用者が書いてくれたものであり、原点として皆で大事にしています。分かり易い言葉を遣い、例えば「利用者に拒否されたときは一旦引いて意向を確認する」といったことが慣行されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	施設周辺を散歩している際、近隣の方々と顔見知りになったり、挨拶を交わすなどしている。納涼祭のお知らせをし、交流の場としている。公園などへ行った時は子供たちとの交流もある。	職業体験では近隣中学6校を受入れ、また看護学校をはじめ各種専門学校の実習場所としても定着しています。平口の花火大会では職員が設営の手伝いとして出向き、玄関の季節の花の入れ替えは近所の花屋さんの好意に依るもので、また近くの畑から農作物が届くこともあります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	おたよりを2か月に一度発行し、認知症に関する情報をお伝えしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度開催している。報告するのみになく、委員会に意見を聞き、改善すべき点はないか検討し、サービスの向上に努めている。	長寿保健課、地域包括支援センター、民生委員、町内会長と副会長2名、家族1～2名、職員とメンバー構成も豊富に隔月開催が叶っています。感染症の広がりやすい時期の事業所の対応について、家族から意見をもらうことで取り組みへの励みとなり、自信につながったこともあります。	運営推進会議では以前感染症の勉強会を同時開催していたそうですが、併催したり(時間枠を替える)、また別日で地域に向けおこなうといった発展的な取り組みを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の会議録と御案内を、直接届けに行くなど電話連絡での連携だけでなく、協力を取るようにしている。	浜北区役所には月1回程度訪問のほか、事業所連絡会が区役所で開催される折にも出向いています。市役所及び地域包括支援センターからは毎回の出席が得られ助けられていますが、事業所側が行政事業に貢献することは特段行われてはいません。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていない。玄関の施錠も夜間のみとしている。	職員のアンテナを高くすることで、エスケープしてしまいがちな利用者が玄関付近にいた場合でも慌てず待つケアができています。スピーチ・ロックとして「この言葉はダメです」という取り決めはしていませんが、理念を遵守し利用者が不快に思う言動は全てNGとしています。	玄関及びエレベータは健常者が操作する必要がある状態が恒常的となっており、「振り返りの場としてある」との毎月のミーティングで題材とし、意識が形骸化しないことを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会や本などを通して学ぶ機会としている。心の負担(ストレス)を溜めないように気を付けている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加している。必要な利用者には活用できるように支援をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容の改定等は、書面での説明を含め、各ご家族に承諾を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時など、来所頂いた際やケアプランの説明等各家庭ごとにコンタクトをとる機会があり、意向を伺うようにしている。	家族の希望が決して利用者本人の本意ではないこともあり、事業所が調整弁として機能するように配慮しています。また「リハビリを」という意見が寄せられた件は「手すりをもって立ち上がりを行なう」時間をつくって速やかに対応しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	現場の職員を優先にして意見を取り入れるようにしている。	「危険が及ばないものに関しては行なって良い」という明確な方針があるため言いやすい土壌にあり、「プランターでミニ家庭菜園を」との提案は2階洗濯室のベランダで実現しています。入職1年未満の職員がいないことから、士気が高い様子が覗えます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護の研修システムを作ってくれたり、給料体系の見直しをしてくれたりと長く働くための体系を整えてくれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修はもちろん、介護実務者研修は法人内で行い、費用も企業もちで受講しやすくなっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	機会あるごとに全員対象の研修会や講義の案内があり、働きながら勉強する機会がある。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	なるべく本人に寄り添い、安心して要望や不安などが言える関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居する際は面談の場を設け、要望や困りごとなどを聞くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	情報収集し、その中からまず必要なケアを見極め支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者がやってもらう立場のみにならないように、ひとりひとりの力を把握し、できることはやってもらうことで、お互いに感謝し合える関係作りに努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の役割を一緒に考え、ご家族、施設が協力して本人を支える関係になれるようにしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの関係を継続できるように基本的に面会の規制はしていない。	容器や新聞紙の大量収集、クロスワードパズルに夢中な人、個々の趣を大切にしています。手持ちのパズルを全て消化して「新しいモノが欲しい」には買い物支援で応え、大人買いが叶い大変喜んでもらえました。面会は時間制限がないため、夕食をともにしてゆく家族もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ひとりひとりの性格や感情の変化を理解した上で、利用者同士が関わり、支え合える関係が持てるように支援している。又、職員が橋渡し役をしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後、入院先へお見舞いへ行くなどしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人とゆっくり話をする場を設け、希望を聞くようにしている。希望を伝えられない利用者はそれまでの生活や性格などを考慮し、苦痛なく過ごせるように配慮をしている。	居室は意向確認ができる恰好の場として親しく話している職員もいます。アルコールで一旦は体調を崩したものの此処での暮らしから元気になった利用者の飲酒希望と、難色を示す主治医との折衷案として、「ノンアルコールビールなら」ということで解決したケースもあります。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に面談の場を設け、情報収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日バイタルチェックをしている。必要に応じて暮らしの様子を記録している。その情報は職員で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必要に応じて本人、家族、ドクター、看護師などと話し合い、それぞれの意見を反映させたプラン作りをしている。	経験の浅い職員は1名、計画作成担当者は3名ほどのモニタリングを担当し、プランの見直しは3ヶ月に1度おこなっています。各フロアに3名の計画担当責任者がいますが、「おまかせ」を払拭「全員参加」を旨とし、ケアプラン会議は毎月全体で集まっています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は個別記録に随時記入し職員間で共有できるようにしている。又、その記録を元にプランの見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	サービスをパターン化してしまわないよう、その時必要なサービスは何か検討し、取り入れるようにしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホーム周辺のスーパー、公園などを把握し希望に合わせて出掛けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に主治医の診察を受けている。受診結果は記録し、家人へ郵送している。	入居時に提携病院にて一度検査をすることで、その後急変となっても24時間オンコールの仕組みがあります。誰にとっても安心があるため、ペースメーカー利用と精神科以外は移行してもらっています。5～6週間おきの受診は職員が付き添い、家族には主に郵送で伝えています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調に変化があった場合は、看護師に相談し、指示をあおっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院が近くにあり、入院をしても情報交換ができるような関係作りをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	必要に応じて本人、家族の要望、施設で出来る事を話し合い、医師、看護師と連携を図りながら苦痛なく過ごせるようにしている。	「一般浴槽では苦痛が伴う」状態になると併設の老人介護保健施設を紹介しています。また医療が継続必要という場合も主治医の判断の下移設となるため、看取りはおこなっていません。家族も「いつも診てくれる医師のいるところなら安心」という声が大半を占めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時はマニュアルに沿って対応するようになっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を実施している。	防災訓練は春、秋実施し、2回目は併設の3事業所合同で消火器の取扱いと放水訓練をおこないました。連絡網の伝達は「夜勤者が応援を呼ぶ体制が出来ているか」を注視して取り組んでいます。備蓄は倉庫に3日分の食糧・水があり、防災頭巾は1名に1つずつ用意されています。	地域の消防青年団がないという現状は致し方ないこととして、「では何ができるか」を区や市など周囲の助言を得ていくことを期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心を傷つけない言葉掛けに注意している。	羞恥心の高い人の入浴には「頭と背中だけ流させてくださいね」と言って警戒心を解き、浴室での同席は極力減らしています。またトイレは本人が立ち上がった時を見逃さず、さりげなく声をかけて誘導し、いついかなるときも黒子に徹するよう職員指導をおこなっています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何でも職員が決めてしまわず、自己決定できる場面作りをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはおおまかに決まっているが、無理強いせず、個人のペースに合わせて過ごせるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやおしゃれができるようにその人の力に依りて支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員が協力し、食事の準備～片付けまで行っている。外食や昼食作りの時は好みのメニューを利用者に聞き、好きな物が食べられるようにしている。	ご飯は事業所で炊いていますが副食は隣接の調理場から運ばれています。ただし、週1～2回はリクエストで炊き込みご飯やカレーを手づくりすることもあり、サンドウィッチでは利用者同士「どうやって塗るの？こっちの美味しそうだね」とテンションもあがり笑顔の華が咲きました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量が把握できるように記録している。利用者の食べる力に合わせて食事形態を変えている。又、好き嫌いがある人は別の物を提供したり、食が偏っている人は混ぜご飯にするなど工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	就寝前の口腔ケアは利用者のできる力に合わせ介助、声掛けをしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	なるべくトイレで排泄ができるように支援している。その人に合わせた下着、パット類を考え使用している。夜間は安眠を優先し、オムツを使っている利用者もいる。	日中のトイレには立ったことを活かして遠回りなどして“歩く、ことを増やしています。夜間については、覚醒が不十分でトイレ誘導を行なうと転倒のリスクが高まる為、止むを得ずオムツを使う人が多くいます。EGファイバー、ヤクルトは定期購入して便秘対策にも余念がありません。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を含む食べ物を提供したり、こまめな水分補給を促したり、家事活動など体を動かす機会を作り、便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望がある利用者にはその希望に合わせている。その日の体調に合わせて、入浴の時間を決める事もある。ある程度は職員側で決めているが、入る入らないは本人に決めてもらっている。	嫌がる人にはゆず湯など目先をかえて誘い1週間に2回の入浴を清潔保持の目安としていますが、2階では1名毎日の人もいて希望に添っています。夜間帯入浴は職員負担が大きいものの、就寝前に入浴することで安眠につながる人の願いも優先しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣や体調を考慮し、休息する時間を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬情報に目を通すようにしている。服薬の際は、名前と錠数を確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人ができる役割を作り、張り合いのある生活ができるようにしている。散歩やおしゃべりの場、歌をうたう、コーヒーを飲むなど楽しみや気分転換になることも取り入れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩や買い物などなるべく希望に沿えるようにしている。家族との外出の制限はしていない。月に1度は皆で外出する機会を作っている。	月1～2回は外出行事があり、普段は寝ていることが多い人でも車いすに座ったままリフト車で移動でき、身体に負担なく楽しめています。美園公園、アピタ浜北のフードコート、回転寿司と、お気に入りのエリアも年々増え、職員も全員出勤のシフトを組みユニット毎にでかかっています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知の状況や本人の希望を考慮し、金銭を所持してもらっている。買い物の支払いを自分でやっている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があればいつでも電話をしたり、手紙を出すことができる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	大きすぎる音や雑音がないようにテレビや音楽の音に配慮している。温度はエアコンで、湿度は加湿器を取り入れ調節している。カレンダーや壁飾りなど季節に応じて変えている。最近、花を飾ることがないので今後は取り入れていきたい。	シンプルな空間ですが、反面ワンポイントの掲示物がより際立っています。また牛乳パックを八角形につなげた足載せ台(車いすを利用の人が椅子に座り直すときに使う)など、職員の手造りが目につきます。廊下側と窓側に1つずつソファが配され、居場所づくりも成されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂にソファを置き、利用者同士でおしゃべりが出来る場を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室では本人の好みの物、なじみのある家具や日用品を使用している。	ベッド、エアコン、カーテン、洗面所が予めあり、ほかにも押入れタイプのクローゼットは広い収納スペースがあります。「センサーマットは拘束にあたる」との考えをもって、居室入口には扉が閉まると紐が外れて鈴が鳴るよう職員アイデアが施されていました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ひとりひとりのできること、わかることを把握し、安全を確保した上で、自分でおこなえる環境作りに努めている。目印やネームプレートなども使用している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2278300311		
法人名	医療法人社団明徳会		
事業所名	グループホーム いつくしみの郷 3F		
所在地	静岡県浜松市浜北区平口2406-1		
自己評価作成日	平成27年10月1日	評価結果市町村受理日	平成27年12月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先: x.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=227

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成27年10月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

病院が近くにあり、祝祭日、平日、夜間にかかわらず24時間対応の医療連携が来ている。平口周辺には、豊かな田園風景があり、のんびり生活できる環境にある。毎月季節に合った行事や外出を取り入れ、毎月、写真付きおたよりを利用者及び家族に発行している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

玄関に咲き誇るハイビスカス、鶏頭、ペチュニア、千日香のほか裏庭のブルーベリーも職員と利用者の世話の賜物で、話材としても重宝されています。また母体が病院で老人介護保健施設もあることから医療面で安心の環境にあります。例えばお風呂は一般浴槽のため、物理的にも難しくまた苦痛が伴う状態になると併設の老人介護保険施設を紹介しています。また継続的に医療が必要と主治医が判断したなら移設ということになるため、事業所では看取りはおこなっていません。家族も「いつも診てくれる医師のいるところなら安心」という声が大半を占め、医療連携が取れていることで入居を希望される家族がほとんどです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	いつも目に入る玄関に「気持ちの良い生活」という理念を掲げ常に意識し、サービス提供できるよう心掛けている。	玄関には筆文字の大きな理念が掲げられています。11年前の開設時の利用者が書いてくれたものであり、原点として皆で大事にしています。分かり易い言葉を遣い、例えば「利用者に拒否されたときは一旦引いて意向を確認する」といったことが慣行されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月、近所の公園や飲食店等に出掛ける機会をつくったり併設の老健の納涼祭に参加したりして地域の方々と交流している。	職業体験では近隣中学6校を受入れ、また看護学校をはじめ各種専門学校の実習場所としても定着しています。平口の花火大会では職員が設営の手伝いとして出向き、玄関の季節の花の入替えは近所の花屋さんの好意に依るもので、また近くの畑から農作物が届くこともあります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で発表したり町内会用のおたよりを発行したりして認知症の理解、支援をして頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度会議を開催して出た意見は、サービス向上に活かしている。	長寿保健課、地域包括支援センター、民生委員、町内会長と副会長2名、家族1～2名、職員とメンバー構成も豊富に隔月開催が叶っています。感染症の広がりやすい時期の事業所の対応について、家族から意見をもらうことで取り組みへの励みとなり、自信につながったこともあります。	運営推進会議では以前感染症の勉強会を同時開催していたそうですが、併催としたり(時間枠を替える)、また別日で地域に向けおこなうといった発展的な取り組みを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎回、運営推進会議に参加して頂いている。	浜北区役所には月1回程度訪問のほか、事業所連絡会が区役所で開催される折にも出向いています。市役所及び地域包括支援センターからは毎回の出席が得られ助けられています。事業所側が行政事業に貢献することは特段行われてはいません。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしてはいけないことは理解しているが、利用者さんの安全のためにエレベータの操作や玄関のドアを開ける時は、職員が行っている。	職員のアンテナを高くすることで、エスケープしてしまいがちな利用者が玄関付近にいた場合でも慌てず待つケアができています。スピーチ・ロックとして「この言葉はダメです」という取り決めはしていませんが、理念を遵守し利用者が不快に思う言動は全てNGとしています。	玄関及びエレベータは健常者が操作する必要がある状態が恒常的となっています。「振り返りの場としてある」との毎月のミーティングで題材とし、意識が形骸化しないことを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や施設の勉強会にて学ぶ機会がある。また、日頃から身体に変わったことがないか観察している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、利用されている方はいないが、状況に応じて活用できるよう支援していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に面談をしている。入居後も、面談や面会をして理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会や面談時に要望を聞き、意見を反映している。	家族の希望が決して利用者本人の本意ではないこともあり、事業所が調整弁として機能するよう配慮しています。また「リハビリを」という意見が寄せられた件は「手すりをもって立ち上がりを行なう」時間をつくって速やかに対応しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	現場職員の考えや意向を優先して運営するよう、意見を聞いている。	「危険が及ばないものに関しては行なって良い」という明確な方針があるため言いやすい土壌にあり、「プランターでミニ家庭菜園を」との提案は2階洗濯室のベランダで実現しています。入職1年未満の職員がいないことから、士気が高い様子が覗えます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護の研修システムを用意してくれたり、給料体系の検討をしてくれたり、長く働くための条件の整備を図ってくれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外はもちろん、実務者研修なども法人の費用もちで行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	機会あるごとに、研修会等の勉強の機会を全員参加対象として案内してくれている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に得た情報を職員全体で共有し、不安な様子が見られたら安心できる対応ができるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談にて話を聞いている。また、面会時に近況報告してコミュニケーションをとるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面会時にセンター方式を活用し、ご本人の様子を見ながら、どのような支援が必要が見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に家事を行ったりおやつの時間等ゆっくりしている時等に会話をし、お互いが必要とされる関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会はもちろん外出、外泊も自由にしてもらい、家族の時間も大切にしている。フロア行事に参加する機会もつづけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の面会を毎回楽しみにしている方がいたり、外出時は自宅や馴染みの美容院に行かれる方がいたりする。	容器や新聞紙の大量収集、クロスワードパズルに夢中な人、個々の趣を大切にしています。手持ちのパズルを全て消化して「新しいモノが欲しい」には買い物支援で応え、大人買いが叶い大変喜んでもらえました。面会は時間制限がないため、夕食をともにしてゆく家族もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食堂の席や行事で外出時は、できるだけ仲の良い人同士でいられるように配慮している。必要に応じ席替えをしたり職員が間に入ったりして雰囲気づくりにも気を配っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	近隣の施設へ転居された場合は、時々面会に行くことがある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	無理強いしないように気を付け、相手の立場に立ってケアに努めている。	居室は意向確認ができる恰好の場として親しく話している職員もいます。アルコールで一旦は体調を崩したものの此処での暮らしから元気になった利用者の飲酒希望と、難色を示す主治医との折衷案として、「ノンアルコールビールなら」ということで解決したケースもあります。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用したりその後、新しく得た情報は記録したりして、職員全体で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活リズムを大切にしている。毎日バイタルチェックをし、異常があれば施設長に報告している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1回、ミーティングを行い意見を出し合い、ご家族の思いも聞き現状に合った介護計画を作成している。	経験の浅い職員は1名、計画作成担当者は3名ほどのモニタリングを担当し、プランの見直しは3ヶ月に1度おこなっています。各フロアに3名の計画担当責任者がいますが、「おまかせ」を払拭「全員参加」を旨とし、ケアプラン会議は毎月全体で集まっています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、生活記録を細かく記入し職員全体で情報共有し、ケアや介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員や施設長、ご家族と話し合い、臨機応変に対応できるよう努めている。3ヶ月に1回介護計画の見直しをしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の公共施設へ出かける機会をつくっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的にかかりつけ医へ受診して適切な医療が受けれている。	入居時に提携病院にて一度検査をすることで、その後急変となっても24時間オンコールの仕組みがあります。誰にとっても安心があるため、ペースメーカー利用と精神科以外は移行してもらっています。5～6週間おきの受診は職員が付き添い、家族には主に郵送で伝えています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設長が看護師なのでいつでも、相談、報告ができ対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	十全病院に入退院することが多いので連携が取りやすい。病院関係者との関係づくりは、施設長を中心にできている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人にとって最適なケアができるように、ご家族、職員、施設長等、話し合いをしホームで出来ることはできるだけしている。	「一般浴槽では苦痛が伴う」状態になると併設の老人介護保健施設を紹介しています。また医療が継続必要という場合も主治医の判断の下移設となるため、看取りはおこなっていません。家族も「いつも診てくれる医師のいるところなら安心」という声の大半を占めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルはあるが、訓練は行っていない。看護師の指示を仰いでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練と連絡網伝達訓練は、年2回行っている。実際に災害が起きたらきちんと対応できるか心配。	防災訓練は春、秋実施し、2回目は併設の3事業所合同で消火器の取扱いと放水訓練をおこないました。連絡網の伝達は「夜勤者が応援を呼ぶ体制が出来ているか」を注視して取り組んでいます。備蓄は倉庫に3日分の食糧・水があり、防災頭巾は1名に1つつ用意されています。	地域の消防青年団がないという現状は致し方ないこととして、「では何ができるか」を区や市など周囲の助言を得ていくことを期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉づかいや態度に気を付け、個々に合わせた声掛け、対応をしている。	羞恥心の高い人の入浴には「頭と背中だけ流させてくださいね」と言って警戒心を解き、浴室での同席は極力減らしています。またトイレは本人が立ち上がった時を見逃さず、さりげなく声をかけて誘導し、いついかなるときも黒子に徹するよう職員指導をおこなっています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の能力に合わせ自己決定できるようにし、ご本人気持ちや意見を言える雰囲気や関係づくりに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活リズムを大切にしているが、時間がない時など職員がやってしまうことがある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的にご本人に決めてもらうようにしているが、必要に応じて衣類調整している。眉ペンでメイクする方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は、出来る方と一緒にしているが、片付けは職員がやっていることが多い。食事形態も個々に合わせている。週1回の食事作りもメニュー決めからお互い協力している。	ご飯は事業所で炊いていますが副食は隣接の調理場から運ばれています。ただし、週1~2回はリクエストで炊き込みご飯やカレーを手づくりすることもあり、サンドウィッチでは利用者同士「どうやって塗るの？こっちの美味しそうだね」とテンションもあがり笑顔の華が咲きました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、食事量、水分量を把握し注意している。水分にトロミをつける等、個々に合わせた対応をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアはしていない。夕食後に声掛けてハミガキや入れ歯洗浄をしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	なるべくトイレで排泄できるよう食事前後に声掛け、誘導をしている。	日中のトイレには立ったことを活かして遠回りなどして“歩く、ことを増やしています。夜間については、覚醒が不十分でトイレ誘導を行なうと転倒のリスクが高まる為、止むを得ずオムツを使う人が多くいます。EGファイバー、ヤクルトは定期購入して便秘対策にも余念がありません。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に合わせ下剤の調整をしている。薬に頼りすぎないように日中の過ごし方にも気を配り、牛乳を飲む等して対応している。排便記録をつけ、職員全体で把握している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	コミュニケーションをとりながら、希望時間帯に入浴できるようにしている。希望によっては毎日入る方もいる。清潔保持のため、週2回は入浴できるようにしている。拒否されたら、無理強いしない。	嫌がる人にはゆず湯など目先をかえて誘い1週間に2回の入浴を清潔保持の目安としていますが、2階では1名毎日の人もいて希望に添っています。夜間帯入浴は職員負担が大きいものの、就寝前に入浴することで安眠につながる人の願いも優先しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状態に合った寝具を使用したり休息の時間をつたりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員がお薬を管理して、お薬情報を確認している。誤薬がないように十分注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事等のお手伝いは1人1人できることを行ってもらっている。余暇時間は、ぬり絵や散歩など好きなことをして過ごしてもらうようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ご本人の希望や職員からの呼びかけで外に出られるようにしている。月に2回程度フロア行事で外出している。ご家族の希望で外出をしている方もいる。	月1~2回は外出行事があり、普段は寝ていることが多い人でも車いすに座ったままリフト車で移動でき、身体に負担なく楽しめています。美園公園、アピタ浜北のフードコート、回転寿司と、お気に入りのエリアも年々増え、職員も全員出勤のシフトを組みユニット毎にでかけています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理は、難しいのでご家族の許可を得て職員が行っている。買い物の際は、職員が代わりに支払うことが多いが、できる方には見守りのもとご自身で支払いができるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、自由に電話ができるようにしている。毎年ご家族に年賀状を出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	落ち着いた色合いで統一されていて季節にあった物を利用者の方と作り飾っている。状況に合わせて温度、湿度の調節をしている。	シンプルな空間ですが、反面ワンポイントの掲示物がより際立っています。また牛乳パックを八角形につなげた足載せ台(車いすを利用の人が椅子に座り直すときに使う)など、職員の手造りが目につきます。廊下側と窓側に1つずつソファが配され、居場所づくりも成されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂の席やソファに集まって気に合う同士でおしゃべりしている。独りになりたい時は、部屋にいたり、食堂から死角となる場所にもソファを置き、座ったりしてゆっくりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、なるべく使い慣れたものをもってきてもらってご本人が過ごしやすくなっている。	ベッド、エアコン、カーテン、洗面所が予めあり、ほかにも押入れタイプのクローゼットは広い収納スペースがあります。「センサーマットは拘束にあたる」との考えをもって、居室入口には扉が閉まると紐が外れて鈴が鳴るよう職員アイデアが施されていました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全第一を考え、環境整備に努めている。状況に応じ、居室の戸やトイレに貼り紙をしている。自分で自由に動けるよう見守りを徹底しており、自立支援に努めている。		